

平成 29 年 8 月

魚津市定例記者会見



日時：平成 29 年 8 月 1 日（火） 午後 1 時 30 分～

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、NHK、KNB、BBT、NICE TV

市当局出席者：市長、副市長、教育長、企画総務部長、民生部長、産業建設部長
企画政策課長

1. 市長からの発表事項

(1)第 48 回じゃんといこい魚津まつりについて (8/4～7)

- ・ユネスコ無形文化遺産登録後、初となる「たてもん祭り」の開催
- ・新規企画「UO! JAZZ & 山・鉾・屋台フェスティバル」伝統文化とジャズのコラボレーション
- ・蜃気楼ロードサイクリング

(説明内容は別添プレスリリースのとおり)

(2)市長のタウンミーティングの開催について

- ・開催期間は 8 月下旬から 11 月末（予定）
- ・人口減社会を、市民一丸となってどのように克服していくかという視点で、まず、こちらから話した後に、市民の皆さんの積極的な提案や意見を伺いたいと考えている。
- ・プレスリリースでは 2 年に一度タウンミーティングを行っているとはあるが、必ずしも 2 年に一度と決めているわけではない。
- ・ぜひ、地域の方々と一緒に魚津の将来を考えていきたい。

(説明内容は別添プレスリリースのとおり)

2. 教育委員会及び各部長からの説明事項

〈教育長〉

- ・第 35 回井原市友好親善都市児童交流事業（今年度は井原市に訪問）
- ・魚津工業高校ものづくり教室（小学生 4～6 年対象）線をなぞって走る不思議な車づくり
- ・第 31 回全日本大学女子野球選手権大会

〈企画総務部長〉

- ・ラジオ体操（大町小学校が中継会場）
- ・婚活セミナー（ファッションコーディネート講座）
このとりプロジェクトの一環。9月に行うBBQイベントに向けての男性向けファッションコーディネートセミナー

〈民生部長〉

- ・小規模保育園の交流事業（住吉、片貝、松倉、西布施、野方保育園の5歳児）
- ・魚津市障害者体育大会（今年からありそドームで開催）
- ・第47回一日里親受入式

〈産業建設部長〉

- ・農商工連携インターンシップ事業
- ・第37回朝日滑川間国道・バイパス建設促進期成同盟会総会
- ・第25回東部山麓道路建設促進期成同盟会総会
- ・ミラージュランド新企画「サマーナイトゆうえんち」
立体迷路のミラメイズがお化け屋敷「恐怖の館」に。
- ・20歳の挑戦事業（東洋大学生約10名が参加予定）
- ・魚津漁火まつり（海の駅蜃気楼特設会場）
- ・魚津市都市マスタープランの答申
- ・かのこゆりロードの設置（かのこゆりロード終了後、例年どおり無償配布予定）

3. 質疑応答の内容

「たてもん祭り関係」

《記者からの質問》

ユネスコ無形世界文化遺産登録後、初めてのたてもん祭りになるが、これに期待されることや、全国植樹祭などもあったが、どういった年にしたいか、市長の想いを伺いたい。

《回答》（市長）

繰り返し話をしてきているが、せっかくユネスコ無形世界文化遺産に登録されたこのタテモン文化を、しっかり未来に継承していけるような取組をやっていきたいと考えている。このことをきっかけとして、秋には「たてもんの森プロジェクト」も始動していく。そういったことを呼びかけながら、たてもん祭りを支える裾野を広げていく。また、ふるさとを離れている魚津出身の方にも応援を呼びかけていく。そういう取組をしっかりやっていきたいと思っている。

《記者からの質問》

他の無形世界文化遺産に登録されたところは例年よりも人出が多いと聞いているが、魚津の方では安全対策等で例年と違うことを考えているか。

《回答》（副市長）

今まで事故はないが、安全対策は例年通りいつもどおりにやっていきたい。

《回答》（市長）

たてもんそのものを引き回したりする規模などは、場所等のこともあり変えようがなく、新たな設えは難しい。その観点からいうと安全対策はこれまでもやってきているし、今年も同じである。今回、新たにやっていくUO!ジャズなどは、たてもんとは別の場所で開催するので、全体の規模は大きくなり、展開はいろいろやっていくが、パーツで見るとたてもんそのものが変わるというわけではない。

《記者からの質問》

協力隊の枠はいっぱいになったか。

《回答》（教育長）

定員 300 名で、最大でも 320 名までということであったが、現在 318 名の申込みが既にあり募集を締め切っている。今年も無事に祭りを行えそうである。

「産婦人科クリニック」

《記者からの質問》

産婦人科クリニックについて、3 回目の会議の結果が報道されたときに、かなり労災病院との連携のことが出てきている。記者の感じ方で違う場合もあるかもしれないが、自分としてはちょっとイメージと違っていた。労災病院の施設を活用することは現実的な方法だとは思いますが、その部分について、途中経過ではあるが、市長はどのように考えているか。

《回答》（市長）

考え方はいろいろあると思うが、基本構想検討委員会のなかで、特に委員の方から言われたのは安全面の体制の話である。現実的なことをいうと、通常分娩だけというわけにはいかず、緊急の対応が必要になるケースがある。そういったときの安全面の確保はどうなのですかということ結構シビアに言われた。そういった業のなかで外がいいのか中がいいのかを検討していった経過はある。その議論のなかで、労災病院（機構）方から協力できるという話があった。そういうことであれば、より安全確保ができるような体制というのは、市民の方も安心するのかなと考えた。ということで連携を強める方向に結論がいったということはある。

《記者からの質問》

機構側は話が出てきたときの協議のなかで、機構側の協力みたいなものは、今回はメンバーの中に院長が入っておられたという事で、そこは変化と判断してよろしいのか。

《回答》（市長）

変化があったというか、最初の頃、第一回目ころはそういう話はあまり出てこなかったと思う。第2回目ぐらいからは機構としてもしっかり協力をいくような形になったと思う。

《記者からの質問》

市長的には思い描いていたものと、第3回目に出てきたものに対してどう思うか
《回答》（市長）

そのような形を活かしてより良くできるのであればいいなと思っている。

《記者からの質問》

思い描いていたものと、齟齬（そご）はないか。

《回答》（市長）

齟齬はないようにしていく。何回も言っているが、ただ単に産む場所を作る気はない。しっかりと産める環境を造って、魚津市全体で子どもを育てていく拠点を造りたいということなので、そのしっかり産む機能を病院と連携して造り、育てていく機能を病院に隣接して設けるというコンセプトなので、そう意味では当初考えていることと違いはない。物理的に産む機能の場所がなかに入っていたというだけである。

《記者からの質問》

むしろ理想に近い形か。

《回答》（市長）

そのように思っている。

「埋没林カフェ関係」

《記者からの質問》

7月28日のプレスリリースで「魚津埋没林博物館のカフェ運営者が決定しました」とあり、「応募者からはカフェ運営をエントランスとする提案がありました。これについても審査した結果、エントランスホールでの店舗運営が承認されました。」とあるのですが、一部報道では、一部に異論があって承認されたような形ではなさそうなのですが、これについてはどうなのでしょう？

《回答》（市長）

議論の経過、中身については、詳しくは把握していないのだが、その提案でもOKだということを委員会では認めたのだと思う。そのように「決めた」というのではない。今後はそれを基にして、どういうふうに整備していくかを設計コンペにかけていく。そういう意味では、そこで決まったというわけではない。いろんな意見があると思うので、あの場所をより市民に開かれたオープンなスペースにするにはどういう配置がいいのかをしっかりと議論すればいいと思っている。

《記者からの質問》

まだ海側、山側だというのは全く白紙か。

《回答》（市長）

その提案を基に設計コンペが組まれるので、どうなっていくかということである。

《記者からの質問》

念のために確認だが、エントランスホールを整備することを条件に設計のコンペを行うわけだから、エントランスホールに作ることは決定であるのでは。

《回答》（市長）

業者の提案をもとに設計を出しますのでそういうことになる。

《記者からの質問》

テーマ館の設計はでてこないですね。

《回答》（市長）

現実的には、今、手を挙げている人の考えがそのようであるから、そのとおりになると思う。ただ、そうなったとしても、元々のコンセプトはカフェの位置が、どちらがいいかではなくて、あの場所をいろんな人がオープンに出入りするためにはどうしたらいいかが基本なので、その考え方でそのコンセプトに沿った設計が組まれるというようになると思います。カフェの位置がありきでなく、どうすれば人が自由にたくさん出入り出来て、オープンな場所で、ものを食べたりする憩いの空間ができるかというコンセプトです。

《記者からの質問》

設計するのはカフェだけでなく通路もテラスもそうですね。

《回答》（市長）

おっしゃる通りです。

《回答》（副市長）

当初、市でお願いした設備は全部できる。たまたまカフェの場所だけが業者の提案がエントランスということで、海岸から入る道路やデッキテラス、育児スペースや授乳スペースは設置できる話ではあるので、それを議会で報告したということである。少し当初と違うという話が出ているみたいであるが。

《記者からの質問》

もう話はしているとは思いますが、テーマ館の海側のところのテラスから立って見ても、海が見えないですね。ここから蜃気楼見るのか、みたいなこともあって、もっと違った設計も視野に入ってガラッとかわったものになりえないのか。

《回答》（市長）

あそこは埋蔵文化財地なので、設計については海側で展開していくときは限界がでてくる。そのあたりの現実の制約も踏まえて、どうやれば人の導線、動きがスムーズになるのか利用しやすいのかということを考えて組んでいく。もともとの計画の絵も、あれは市が決定したと出してわけではない。国への申請で交付金をとる過程の中で、とりあえずこのような形でも考えられますよという形を出している。そのあたりを最初に決まっていたと取られるのは、むしろ違和感を覚える。コンセプトは、ともかく海側からも、こちら側からも自由に出入りができて、より多くの人々がフリーに動ける。そのなかにかフェをどこに配置するかということである。